

製品名: ATF-2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab07265**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000,IP 1:20-1:50
分子量	52kDa

抗原情報

遺伝子名	ATF2
別名	ATF2; CREB2; CREBP1; Cyclic AMP-dependent transcription factor ATF-2; cAMP-dependent transcription factor ATF-2; Activating transcription factor 2; Cyclic AMP-responsive element-binding protein 2; CREB-2; cAMP-responsive element-binding pro
遺伝子 ID	1386.0
SwissProt ID	P15336
免疫原	抗血清はヒト ATF2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 40-89

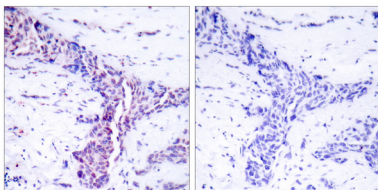
背景

活性化転写因子2 (ATF2) Homo sapiens この遺伝子は、DNA結合タンパク質のロイシンジッパーファミリーのメンバーである転写因子をコードしています。コードされているタンパク質は、機能的に異なる機能を実行する能力に基づいて、ムーンライティングタンパク質として識別されています。このタンパク質は、八量体回文の cAMP 応答性エレメント (CRE) に結合します。c-Jun とホモ二量体またはヘテロ二量体を形成し、CRE 依存性転写を刺激します。このタンパク質は、in vitro でヒストン H2B および H4 を特異的にアセチル化するヒストンアセチルトランスフェラーゼ (HAT) でもあります。したがって、クロマチン成分に直接作用して転写を活性化する配列特異的因子のクラスを表す可能性があります。コードされているタンパク質は、転写調節における役割とは独立して、細胞の DNA 損傷応答に関与している可能性もあります。この遺伝子には、選択的スプライシングを受けた複数の転写産物バリエーションが見つかっている [RefSeq 提供、2014 年 1 月]。注意: Met-1 と Met-19 のどちらがイニシエーターであるかは不明です。機能: 転写活性化因子 (おそらく構成的) で、cAMP 応答配列 (CRE) (コンセンサス配列: 5'-GTGACGT[AC][AG]-3') に結合する。これは多くのウイルスおよび細胞のプロモーターに存在する配列である。JUN との相互作用により、JUN は ATF2-c-Jun 複合体の一部として、12-O-テトラデカノイルホルポール-13-アセテート応答配列 (TRES) よりも CRES に優先的に結合するようにリダイレクトされる。PTM: MAPK14 による Thr-69 および Thr-71 のリン酸化は、転写活性の上昇を引き起こす。JNK によってもリン酸化され活性化される。類似性: bZIP ファミリーに属する。類似性: bZIP ファミリーに属する。ATF サブファミリー。類似性: 1 つの bZIP ドメインを含む。類似性: 1 つの C2H2 型ジンクフィンガーを含む。サブユニット: DNA に二量体として結合し、DNA が存在しない場合にはホモ二量体を形成する。JUN とヘテロ二量体を形成できる。SMAD3 および SMAD4 と相互作用する。N 末端領域を介して、ATF2 転写活性のコアクチベーターとして機能する UTF1 に結合する。組織特異性: 脳に多く発現する。、

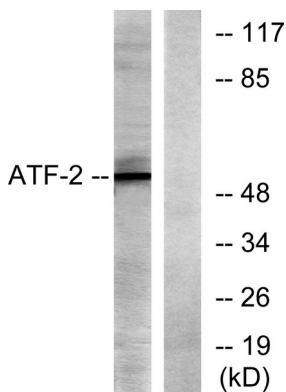
研究分野

B 細胞受容体; 幹細胞経路; MAPK_ERK_Growth; MAPK_G_Protein; PI3K/Akt; タンパク質アセチル化

画像データ



ATF2 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト乳癌組織の免疫組織化学染色。右の写真は合成ペプチドでブロッキングした状態。



ATF2 抗体を用いた LOVO 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。